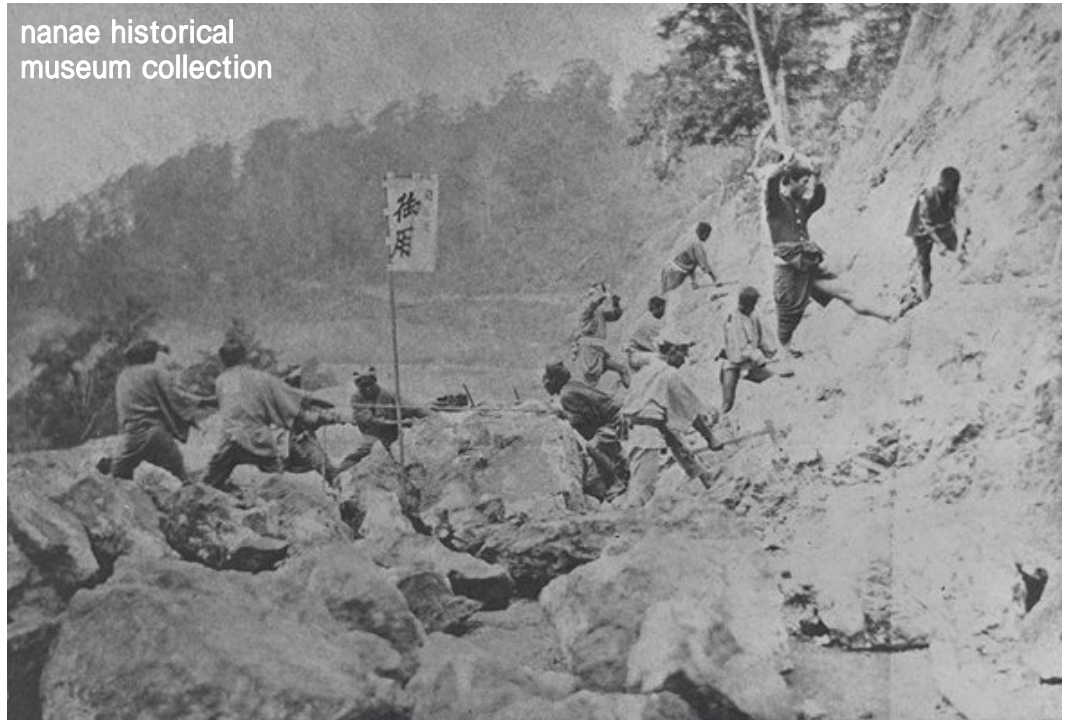


# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第45号

nanae historical  
museum collection



## ななえ古写真物語

VOL. 45

### 明治の路

札幌本道の開削

明治5年

無沢峠（仁山～西大沼）

七飯町の歴史を勉強して、伝えなくてはならない身として、町の人には誇りに思ってもらいたいと思う文化財は結構あるが、日常的に使用しているものとなると、その価値に気付くことが難しい事がある。その代表例として、私は講座などで、現在の国道5号を引き合いに出すことが多い。北海道では類を見ないほど荘厳な赤松並木が続き、140年近くも七飯町の基幹道路として活躍している歴史ある道路なのだが、あまりにも生活の一部になり過ぎて、その景観や歴史について改めて考える機会が少ないのも一つの要因なのかもしれないが、私個人としては、七飯町が自慢して余るほどのポテンシャルを秘めていると思っている。

国道5号については、過去のピチャリ11号「峠下ホテル」や30号「国道5号の昔」でも触れているところだが、今回は七飯町史にも使用されているこの写真を紹介したい。

写真には、「御用」の旗を掲げて、鍬などで斜面を切り崩して道路を開削する様子が写されているが、手前に転がっている大きな礫、それを引っ張る人の姿から、当時の道路開削が、どれほどの重労働だったのかがわかる。何しろ重機のない時代の話なのだから。

また、写真の場所は、無沢峠と呼ばれ大沼隧道が完成するまでは、大沼方面へ向かう主要路の一つだった道である。現在は山道として、有事には防災道路として使用されるのだが、明治29年頃に測量された地図と見比べても現在と道筋は殆ど変わっておらず、当時の面影を残している。

残念ながら、現在はあまり車の往来が無いが、「札幌本道」として、人の力によって拓かれたことを思うと先人の労苦に感謝してしまう。彼らの苦勞によって今もなお、私たちに利便性という恩恵を与えてくれているのである。

この札幌本道は、明治5年に開拓使によって計画し開削されたが、その工事には、トーマス・アンチセルやA・G・ワーフィールドといった御雇外国人による入念な調査に始まり、東京・伊豆・木曾・日光・南部・鹿児島などから雇い入れた人夫は、のべ5,389人にもなったといわれるほどの大工事でした。時代が時代ですので、馬も使用されたと考えられますが、その年中に函館と森を開削したのですから、そのスピードに驚かされます。

紅葉の秋、普段と違う路を走りながら、七飯町の歴史を感じてもらいたい一枚の紹介。

**3日** 夜の博物館で、「旅する蝶」と題して、道南虫の会所属で、当館の昆虫採集教室でもお世話になっている井本暢正氏に昆虫のお話をして頂きました。実際に蝶の鱗粉を顕微鏡で観察したり、標本を多数用いながらの講座になりました。

津軽海峡を渡って本州の方まで旅をするアサギマダラという蝶について、井本氏の長年の研究からわかった生態が紹介され、参加者の皆さんも子供のように目を輝かせているのが印象的でした。



講座の様子



1	土
2	日
3	月
4	火
5	水
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月 体育の日
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月
18	火
19	水
20	木
21	金 館外展CLOSE
22	土
23	日
24	月
25	火
26	水
27	木
28	金
29	土 ジュニア探検クラブ・文化祭
30	日 文化祭
31	月



**10・11日** 大沼森林公園で、ジュニア探検クラブのキャンプを開催しました。はじめにテントを張って、いざ、魚釣りや虫捕りにフィールドへ・・・その途端に大雨の強襲にあい、皆ズブ濡れになったので予定を変更して温泉へ直行しました。夜はジンギスカンを食べ、コウモリを観察し、花火をした後に就寝のはずでしたが、誰も寝てないし・・・。

2日目は、炎天下の中、大沼公園にある石碑探しにグループで挑戦！あまり見つけられないグループもありましたが、大沼の歴史に少し触れた一日になりました。みんな楽しめたかな？

## たむらリンゴジャムを販売しています。

今年も、当館の屋外展示で育成している「たむら」という品種のリンゴを使ってジャムを作製いたしました。60個限定、お一人様1ピンを上限に、300円(1ピン約90グラム)で販売いたします。

是非、七飯町が日本における西洋リンゴ栽培発祥の地である歴史を味わっていただければと思います。

当館のみの販売となっておりますので、詳しくは、事務室までお尋ねください。



味見程度ですがいかがですか？

10月の休館日はありません。

### 次回の展示は…パート2

只今、大沼国際セミナーハウスで、当館所蔵の大沼周辺の古写真を紹介する館外展の準備中です。27日からオープンですのでお楽しみに！ (H)



### 編集後記 ~tawagoto~

テーマ展「ななえの水」で紹介していたスジエビを、いまだにロビーで飼育している。一生懸命に足を動かし泳いでいる姿や、無表情なくせに、つばらな瞳でこちらを見ろという変なギャップに心を打たれてしまったからだ。脱皮を繰り返しながら、少しずつ成長していく彼らの行く末を、温かく見守ってみようかと思っているのだが、これからは食欲の秋になるので、いろいろな誘惑に負けないように心を引き締めている次第だ！ (やまだひさし)

**Richart** ~ピチャリ~ 第45号

平成23年9月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp